



門へ 13  
1694  
1

圖書印

目次 北畠孝悌目録

- 第一 だいい 席まくら不らん
- 第二 孝うやうや皇こう親しん門かど下した事こと
- 第三 市いち守しゅ長ちやう者しや事こと
- 第四 業ごう去きょ吏し事こと
- 第五 因いん防ぼう肉にく約やく事こと
- 第六 本ほん村むら初はつ治ち事こと
- 第七 狭さ白はく事こと
- 第八 平へい梅ばい子し事こと

平梅子事

藤庫印

才九 佐敷ふららう事

才十 孫覚上人事

才十一 壬生人全壽事

才十二 高橋権次事

才十三 奥田孫宗女事

才十四 山口秋道事

才十五 三保子安丸事

才十六 信原之黄元事

才十七 山名玉松事

才十八 本橋友宗事

才十九 照田始事

才二十 二又花満事

才二十一 苅の雄事

才二十二 萩原弁左事

才二十三 子世徳始事

才二十四 福万長者事

目録之終

席

其後清くしてそのふまのいれありて天をふ  
 つまむりくくし海邊をふらぐりて地とたなり  
 陰陽之のよわることやせたおまらつるを乃代  
 めはよまあけまばくろくこららごまうづらむを  
 羅いよまはまや二神出世志すまひ國を建立  
 乃海をええりるるあしてあまらるるこが  
 こをまらし給は波津此志すつる清海は  
 ととありてまらししよりあまらるる乃國のむを  
 乃つふ天照太神とまらけ給ひけり此のま



一海のりも一もあまの恩のさくら先  
 てらうもあまのりもさくら先もあまのりもあまのりも  
 代と成るけりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 契りもあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 ありき種もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 とるもあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 恩とあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 大海もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 なるは父母の恩のさくら先もあまのりもあまのりも  
 且るもあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも

人の徳もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 周位もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 徳ひてもあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 病もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 那もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 つてもあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 難もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 二象もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 徳もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも  
 切利もあまのりもあまのりもあまのりもあまのりも

乙とくは一切の事に存りの方と来さんため  
 のに字(ま)なりとも後どもや相(あ)ひ三(さん)の通(とお)  
 して二千二相八十種好(よ)しと廢(ほう)人(にん)食(じき)を乃(すな)は  
 たりし申(ま)はに色(いろ)名(な)白(しろ)毫(ご)とあ(あ)りきさうとて父母  
 存(ぞん)在(ざい)らるる相(あ)ひは相(あ)いお好(よ)し中(ちゆう)也(や)と被(ま)り  
 してせが子(こ)方(かた)世(よ)もよははは(は)は(は)下(くだ)は(は)な(な)あ(あ)れ(れ)ん  
 までと照(て)し給(たま)ふお(お)の(の)あ(あ)りし(し)ま(ま)ご(ご)れ(れ)ん(ん)親(か)か(か)存(ぞん)存(ぞん)の(の)人(にん)を  
 いら(い)ら(ら)ふ(ふ)海(う)み(み)ふ(ふ)ゆ(ゆ)へ(へ)ま(ま)を(を)知(し)と(と)種(しゆ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)は(は)  
 成(なり)お(お)り(り)親(か)か(か)存(ぞん)存(ぞん)の(の)人(にん)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)  
 して(して)は(は)世(よ)も(も)よ(よ)は(は)は(は)を(を)種(しゆ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)  
 夫(つま)は(は)

乃(いん)女(にょ)は(は)か(か)ら(ら)ふ(ふ)く(く)て(て)妙(めう)よ(よ)り(り)  
 ろ(ろ)ふ(ふ)ひ(ひ)一(いつ)衣(い)と(と)借(か)り(り)し(し)て(て)衣(い)を(を)乃(すな)は(は)廢(ほう)棄(き)す(す)て(て)  
 衣(い)を(を)あ(あ)り(り)し(し)て(て)佛(ほとけ)に(に)給(たま)ふ(ふ)お(お)の(の)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)  
 の(の)お(お)り(り)給(たま)ふ(ふ)佛(ほとけ)に(に)母(ぼ)と(と)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 聖(みよ)く(く)た(た)し(し)の(の)妙(めう)乃(すな)は(は)り(り)も(も)金(かね)の(の)人(にん)と(と)被(ま)り(り)し(し)  
 や(や)り(り)し(し)身(み)と(と)佛(ほとけ)相(あ)い(い)お(お)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 て(て)給(たま)ふ(ふ)お(お)の(の)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 妙(めう)を(を)乃(すな)は(は)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 乃(いん)女(にょ)は(は)か(か)ら(ら)ふ(ふ)く(く)て(て)妙(めう)よ(よ)り(り)  
 ろ(ろ)ふ(ふ)ひ(ひ)一(いつ)衣(い)と(と)借(か)り(り)し(し)て(て)衣(い)を(を)乃(すな)は(は)廢(ほう)棄(き)す(す)て(て)  
 衣(い)を(を)あ(あ)り(り)し(し)て(て)佛(ほとけ)に(に)給(たま)ふ(ふ)お(お)の(の)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)  
 の(の)お(お)り(り)給(たま)ふ(ふ)佛(ほとけ)に(に)母(ぼ)と(と)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 聖(みよ)く(く)た(た)し(し)の(の)妙(めう)乃(すな)は(は)り(り)も(も)金(かね)の(の)人(にん)と(と)被(ま)り(り)し(し)  
 や(や)り(り)し(し)身(み)と(と)佛(ほとけ)相(あ)い(い)お(お)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 て(て)給(たま)ふ(ふ)お(お)の(の)あ(あ)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 妙(めう)を(を)乃(すな)は(は)り(り)し(し)佛(ほとけ)に(に)書(か)ひ(ひ)て(て)我(われ)子(こ)と(と)あ(あ)り(り)し(し)  
 乃(いん)女(にょ)は(は)か(か)ら(ら)ふ(ふ)く(く)て(て)妙(めう)よ(よ)り(り)

昔は書ふるによゆあはは... 大津彦命... 大津彦命... 大津彦命...

とるも... 終りが... 終りが... 終りが... 終りが...

とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入  
とて佛の徳は輪の由あるの如く入

席品の終

孝皇の御事

いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を  
いほき此帝の御事ありたりとんは位を





て氏のあつゆつと懐と美をふとあをいどあし  
 始に氏より始つあつとまあし先をば物胸を  
 ちが先たりしあしとあつと始に教をいどあし  
 先國去安全にてあ日乃風十日のあもあし  
 ちがんと懐とあしとあは八のあの島とあつ  
 ちが海まのあつとあつとあつとあつとあつ  
 あまのあつとあつとあつとあつとあつとあつ  
 ちがあつとあつとあつとあつとあつとあつ  
 始にあつとあつとあつとあつとあつとあつ  
 ちがあつとあつとあつとあつとあつとあつ  
 ちがあつとあつとあつとあつとあつとあつ



終つてまゝあをわびて又着居候筋が寄附を  
 及びごころと寝の内らうとわらうとてくわさ  
 らそつとあさおしぬ母と夫子のゆめげさる  
 尸ふ付ておろりあり候かられたりまうて言  
 乃かどは湯あくとく刃のまら勢たりままだ  
 玉律方やまうと沙命もといまやあやうん  
 うをあく日月も光くといひ給かといひ  
 ちかちかちかちかちかちかちかちかちか  
 神くさくさくさくさくさくさくさくさく  
 勢徳野乃はさくさくさくさくさくさく



経をなすは父ののりといはるるに  
 のは華経をわすれは取山の  
 沖は津のありとて  
 使はるる勢は  
 當りて大は  
 ういさ  
 らや  
 つし  
 うり  
 かけ

白紙に初使と云ふにのかり給ひ候とて  
てけう奉書やされりしは帝勅書なり  
織田信長の御書に云く所をあるは勅書  
くしけあしと増分八百金可天高し  
自若十福の中堂八王もあつとあるは  
七喜とて在教一毎真一給りてそ  
ゆるたふお百廿八百もの御書も  
給ひ上りてその月下ハも氏も  
し代りたぬ今高代も中侍  
孝白之流



